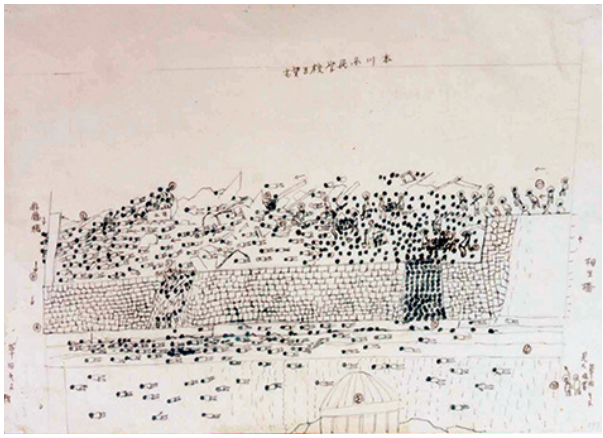
変わり果てた姿❶

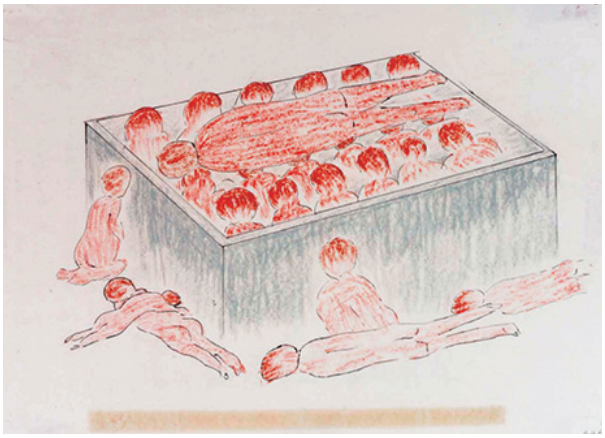
路上に散乱する遺体、防火水槽の中に折り重なる遺体、性別さえ判別できない黒焦げの遺体、放置され崩れていく遺体。あまりにも凄惨な光景を見続けることで、恐怖や憐みの感情を麻痺させていた人々も、その記憶を消し去ることはできませんでした。



おびただしい数の遺体

❶草田キヌ　❷41→70　❸8/9　❹相生橋

相生橋から本川国民学校を望む。



防火水槽の中の遺体

❶住田高一　❷38→67　❸8/7　❹中島町

時間がたつにつれて死に近づく人たちが水を求めて虫の声をふりしぼる。水をあげるとむさぼるように飲み、安心して息を引き取った。

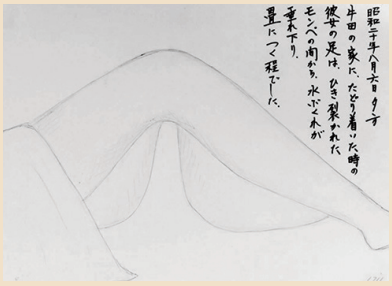
手と足－細部を描く

❶高蔵信子　❷19→48
❸8/6　❹紙屋町一丁目

黒い雨が降った後。手を空に向け指は短かくなり変形し青い炎を出して燃えていた。薄墨色をした液体が掌を伝って地面に流れていた。

❶松室一雄　❷32→61
❸8/6　❹比治山公園の吊り橋下

火の上を歩いて逃げた足。両足裏が焦げ飯のように焼けて、大きなカサブタのようになって離れかけていた。



❶廣川越子　❷18→48
❸8/6　❹牛田旭

友人の足は、水ぶくれが畳につくほど垂れ下がり、伸ばすこともできませんでした。